
もしもシリーズ

煉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もしもシリーズ

【Nコード】

N1414A

【作者名】

煉

【あらすじ】

もしも、ちせじゃなくアケミが最終兵器にされてたら、話・・・
ギャグです。

僕は、破綻してゆく・・・（泣）

・・・・・・・・・・ちせ、俺はとても幸せな男だと思う。（なんちつて）

なんせ、お前が「彼女」だったんだもんなあ・・・アハハ・・・

「何よ！？あたしが彼女だっていうのが気に入らない訳！？？」

「ちっ・・・違います！！」

「態度でかいわねっ！アケミ「様」って呼びな！！」

ひーーーーーーーーっ！！？

もしもシリーズ第一弾。

問題的な彼女

「アケミが最終兵器彼女だったら」

キンコーン、カーンコーン

「シュウジ！！」

ビクッ！！

「な、なーに？アケミ・・・さま」

「彼氏彼女なんだから、一緒に登下校すんのよ!？」

素直に「一緒に帰る」ってかわいく言えよ!？
なんでケンカ腰なんだよ!！？

「あつ、でも俺・・・まだ返事返してないし・・・（てゆうか、ちせのが気になるし・・・）」

「何言ってるのよ？返事返さない＝恥ずかしい＝恋、でしょう?」

どんな理屈だっ!？

「あ!！我が愛しい友アツシ!！俺をたすけて!！!！!！」

「いいなあ・・・シュウジ・・・アケミとラブラブで・・・（号泣）」

「何だべ!??・・・じゃ、タケ!！」

「いいよなあ・・・彼女いて」

「ノリちゃん!！」

「モテモテはほっこうぜ」

そりゃないよ!！ナイス親友!！

「シュウジ」

・・・はっ！アケミがいつもにない乙女な声で話しかけた！！
まさか、彼女になるのを期に乙女らしくなるっ！？

と、思ったのもつかの間、渡されるノート。

「・・・アケミ・・・まさか・・・」

「交換ノートよ。文句ある？」

・・・いや、そんな目で見られたら誰だって文句ないっしょ
違う意味で。

シュウジへ

いつも「俺」「俺」ってクール気取ってるけど似合っていないよ。
てゆうかさ、あんたアホ？

何いつも鼻の下のばしてあたしを見てんのさ。

あゝあ、あたし書くの苦手なんだよねー

あんた絶対返事書けよ。

そうしないと・・・・・・

・・・
・・・
・・・

そうしないと何だよ！？

てか何、その可愛くない交換ノート！？
もっと普通は乙女チックじゃない？

・・・・・・なんだよ！！コレッ

という訳で返事。

「別れよう」。

・・てゆーか、付き合ってたねーし!!

翌日、下駄箱で可愛くモテる少女、「ちせ」と会った。

・・これって、運命の告白!!!!?

そつだよなあ・・付き合うならこんな子じゃないと・・

「シュウジ君」

「あ、何？」

「酷いよ・・・」

・・・・・は？

「酷いよ!!-シュウジ君!」

「何が!?!」

「アケミを振ったなんて酷いよ!?!」

交換ノート見せたの!?!アケミ様!!

「シュウジ君・・・別れるなら口で言えばいいのに・・・酷いよ!?!」

「いや・・・あのー」

「そんな人だなんて思わなかった!?!」

これって・・・失恋?

チャーチャラチャラチャラチャララララ♪(BGM地球の果て)

「何ごと!?!?!」

破壊された下駄箱・・・、巻き添えくってるアツシ。

目の前にいる、ミサイルが生えた

アケミ。

「じめんね・・・シュウジ・・・あたし・・・こんな体になっちゃった。」

「そうか。」

あっさりど。

「そうかって何よ！？あっさりしすぎ！？抱きしめたり、抱擁する
のが
男の務めでしょう！・・・！」

いや、それより

あそこで頭打って血だらけのアツシの心配させてくれ・・・

僕は、破綻してゆく・・・（泣）（後書き）

こんないやだ・・・！（笑）

何がしたいんだ！！自分・・・

そういえば、私シユウジのモテぶりがたまらなく嫌だった気がします。

アケミとかはともかく、夫のいるふゆみまで・・・って。

なんかそれでテツ先輩に同情した・・・事があるような（爆）

アツシがもし戦隊モノだったら

・・・アケミ。

なんで俺よりシュウジを選んだんだ？

俺は・・・君のために戦争まで行つたのにつ！！

ああ・・・神様、どうか俺に幸福をつ

ラララララッラッラララ♪（なんかのクラシック）

「あ・・・あなたはっ！！」

もしもシリーズ第2弾

アツシがもし戦隊モノだったら

「静粛に！！」

神様は俺に言つた。

ああ・・・神様・・・なんて神々しい・・・

．．．．．
．．．．ノリちゃん。

「なんだよ！その．．．．の間は！」

「いや．．いくら出番少なくともノリちゃんが．．．」

「いいだろう別に！それより願いがあるんじゃない？」

はっ！そうだ！！俺はノリちゃん、じゃなくて神様に願いが！！

「俺をアケミに相応しい男にっ」

「手術料１００００００００００万円だ。」

「．．．．ブラッ。ジャ。クかよ！！」

はっ！駄目だ！！突っ込んで駄目だ！

俺の今の願いは．．．

アケミをシュウジから奪い返す事！！！！

「いや・・・もともと奪ってねーし・・・bｙシュウジ」

「分かった」

「え！いいの！？」

散つてく桜吹雪

（今日の所は・・・見逃してあげますよ・・・）

また、パロかよー！！

・・・そして・・・俺が目覚めた時、

頭の中にはデカ・レンジャーのテーマソングが流れていた。

「.....アツシレッド?」

っ
っ
”
け

アツシがもし戦隊モノだったら（後書き）

短い上につまん！！

しかもシュウジいじめ、まだやってるよ！！

だってアツシもかわいそうですもん。

好きな子のために戦争行つたのに（行くことが正しいかは分からないが）

その子は好きになってくれなくて、

・・・しかも相手がシュウジ（怒りの原点）

ま、シュウジが嫌いって訳じゃないんですけどね

アツシレッド、敗北

アケミ・・・！俺、いつか君に相応しい男になるよ！！

だから・・・待ってて

「その マークが気に食わないのよね」byアケミ

もしもシリーズ第2・5弾。

「アツシレッド」の行く末。

アツシレッドの一日。

まず、朝起きる。

「うーんっ！！気持ちの良い朝だな！！」

そして優雅に朝食。

（ゴッドファーザー愛のテーマ）

「豊かな世界だ・・・」

選曲間違ってます。

鳥に戯れながら登校。

「やあ！！みんなおはよう！！」

アツシの、前に無かった爽やかさ100%の笑顔に

・・・この女が黙っているわけが無かった。

「絶対おかしい！！！」

「何がおかしいの？アケミ」

ちせが聞いているが聞く耳を持たない。

「アツシはきつと変な物でも食ったのよ！！」

さすがに拾い食いはしません。

と、その時・・・

ピーピーピーピーピーピーピーピー！！！！！！！！！！

同時にアツシ&ちせのポケベルが鳴り出した！！！！

「何よ？」

「何でも無いよアケミ!!」

「どうした？」

「ノートラブルだよシュウジ!!」

「「出撃!!」」

2人の心は重なり・・・

瞬間、心、重ねて。(違う)

「アツシレッド!!ヘーーンーしーんー!!」

レッドスモーク、カモーン(元ネタ)

そして見たくも無い男の変身シーン・・・じゃなくて・・・

それを影から「神様」ことノリちゃんが見守っていました。

「がんばれ!!レッド!!」

(中略)

レッドは、もの凄い速いスピードで戦闘機を落としていきます。

すごいぞ！レッド！

アツシパンチにアツシキックにアツ・・・（略）

とにかく、最強だ！！

だが！！

「何で・・・あたしの邪魔するのかなあ？」

「出たな！悪の化身め！！」

なんかいつのまにか敵対体制。「何で」を言った人はご想像どおり

最恐のあの子です。

「大変だ！！このままでは、アツシが！！」

ノリちゃんは危機を感じ、自分の持てるすべてを使いました。

ブルーよ！！！！

「そんでさー・・・」

「タケ？」

「ん？何ユカリ？」

「その頭に載ってるヘンテコリンなステッキ何？」

「へ？」

ステッキには、

愛と正義のレッドを助ける

知略と栄光のブルーになって！！（お願い）

と、半ばヤケに書かれていた。

しかも油性。

アツシレッド、敗北（後書き）

アツシ、戦う前から敗北中。

そろそろ、オヤジグループも出したい・・・
てか・・・すいません。

サイカノと愉快的仲間達（前書き）

何かミズキも出てきます。

多分・・・オールキャラになるんじゃないかと・・・

サイカノと愉快的仲間達

なに？あたしの他に最終兵器？

そんなのいらんべさ。主役はあたしだべ。

あ・た・し！！

ん？アツシレッド？

そんなもん・・・

「・・・・・・・・ちせ」by シュウジ

あ！シュウちゃん！！さっきの私じゃないからね
信じてね！！兵器ちせだからね！

「・・・・・・・・・・」

なんや今の間は。

「す・・・・・・・・すいません！！」

アケミ、俺・・・今、最強の気がするよ！！

見てるかタケちゃん！

「おい、アツシ・・・オレの授業がつまらない事はわかるが席の上に

足を

乗せるのはやめろ」

ピキーーーーーッ！

「先生、何かをキャッチしました！！」

ちせ&アツシは何かをキャッチした。

「「「何を「「「「

全員、異口同音。

「「出撃します！！」

((どこに))

またしても以心伝心。

ノリちゃん「説明しよう！アツシは神の力によりアツシレッドに変身できるのだ！！」

そして、お約束の屋上変身。

「アツシレッドメー……クアップ……!!」

レッドスモークカモン。

恐ろしい描写なので、コレくらいしか言えません……。

そして、変身完了。

「ノリちゃんに代わってお仕置きよ!」

バキューーーーン

「ぎゃあああああああつ」

いきなり、ちせがミサイル発射!!

「何すんだよ!ちせちゃん!!」

「・・・煩い。負け犬の遠吠え」

さすが、ちせちゃん！さすが最強兵器彼女（？）だね！！

「大体、あんたの目的はシュウジという男を消す事だろう」（兵器モード）

「はっ！」

蘇る回想。

「・・・そうだった・・・そうだったんだ・・・」

教室の窓際にはちょうどシュウちゃんが！

危ない！シュウちゃん！！

「アツシ！いつきまーーーーーす！！！！！」

「え」byシュウジ

「うおおおおおおおおおおおっ」

「んなアホなーーーーーっ!?」byシュウジ

ドカーン。

それを見たちせは満足そうに呟いた。

「さあ、あんたが相手かい？」

「よく分かったわね・・・ワガママ高校生」

そこには伝説の試作最終兵器ミズキさんのおでましだーーーーっ！

「アケミと勝負したかったけど・・・（日頃の恨み）
まあいい。あんたで。」

「くっ！兵器モードは生意気ね・・・」

（何でこんな子が！！）

「じゃあ、私が勝ったら貴方の兵器の性能・・・全部、私に渡しなさい」

「いいんかなあ」（彼女モード）

「は？」

「私が勝ったら・・・ミズキさんの好きな人・・・バラしていいんかなー？」

「なっ・・・・・・・・！（赤面）」

「「いざ、勝負！」」

そこに、特撮派遣会社のカワハラさんが・・・

「ああ！あそこにいる3人、使えそうですね」
（アツシも含まれている）

そして、一週間後・・・

軍隊のトラックが、ヒマソーに走っておられました。

「・・・・・・・・てんき・・・・・・・・です。・・・・はい・・・・くもり」（ラジオ）

「やっぱ高倉健さんの天気予報・・・つまないですねー」byナカムラ

「だなー」「ですよなー」byリョーヘー 名無し兵士

「・・・・・・・・」byテツ

「えーでは、CMに入りマース」(ラジオ)

「地球の果て」↑BGM

「「「「?」」」」

「主演アツシレッド」アツシ、ピンクチセ」最終兵器ちせ、グリーンミズキ」最終兵器ミズキ

イエローアケミ」ペンネーム・ラヴリー・アケミ・・・・・・・・」

「あー!ちせちゃん出るんだ!」byナカムラ

「録画してありますよ」byリョーヘー

「%’(LJHGUFYRHO)」MNB D%### ##
OHOK+L*+~~~~~”””\$&am p;:&am p;:&a

m p , \$ - () , * * @ ¥ ¥ ¥ ¥ . . . ! ? 「 」

「サイカノ戦隊彼女ージャー！！」
（ラジオ）

「カワハラさん、特撮会社もやってたしな」

「ですよね」

{ ! ? @ @ @ @ @ # # # # # # # (- -) { { }

「……………何語喋ってんですか、テツ二尉」

「タケブルー」タケ（強制）、えーその他怪獣さん北高の全校とそこで呑気にラジオ聞いてる軍人3人組なんです」（ラジオ）

「え？」

異口同音。

•	•	•
•	•	•
•	•	•
•	•	•
•	•	•
•	•	•
•	•	•
•	•	•
•	•	
•	•	
•	•	
•		
•		
•		

「給料返せ————っ！！！！！」

「遅いです！諦めてください！！一尉——っ」

「兄^{ニイ}って呼ぶな――っ！」

「呼んでませーん！」

「あゝ．．．彼女に無様な姿を見られる．．．」

愉快な仲間達。

サイカノと愉快的仲間達（後書き）

軍部グループ登場なのに全員壊れてる・・・。
とりあえず、今度はふゆみ先輩がど修羅場に陥り・

アケミがまたまた大暴走。

お楽しみに・・・（つて出来るわけがない）

最強泥沼伝説

シュウジは歌ってました。

「世界は破滅くはめつはめつ・・・」(メーリーさんの羊風)

隣のベッドではアツシもいます。

そうです。前回のアツシ君特攻事件で二人は大怪我を負い入院していたのです。

「うるせーぞシュウジ」

「おめーのせいだ」

アツシ君、ちょっと不機嫌です。なぜなら・・・

「ちょっとシュウジ！私の剥いたりんご食べなさいよ！」

「やだよ不味い」

そう、この「もしもシリーズ」ではまだアケミ様&シュウジの主従カップルは健在です。

アツシ心の声(なんでアケミ・・・！)

一方、ちせとミズキはまだ戦っておりまして。

「私は貴方を兵士として認めない〜〜〜〜！！！」

「プロトタイプのくせに〜〜〜〜〜〜〜〜！！！」

ドカーン。

ドカーン。

「あ^^いいですね」

カワハラさん、他軍の皆様どさくさにまぎれてビデオ撮ってます。

イトウ「あの、良いんですか？」

「大丈夫ですよ 長官命令ですし」

イトウ（あの長官何考えてんだよ）

イトウさん、考えるも何もありません

だって「もしもシリーズ」の世界なんですから！

イトウ「だからオールキャラなんですネ・・・」

よく見ると野次馬の中にマサさんや大將さん達いるし。

「がんばれ〜〜ちせちゃん」

頑張ってもらわれても困るよ……。だって・

「きゃーーーーーっ」(校舎崩壊)

校舎の中の生徒が大変な目に。

イトウ「これだからオールキャラって・」

？「私を忘れてないかい？」

やけに色っぽい声がしてイトウさんは振り返りました。
そこには・・・

男全員「うわーーーーー！」

女優顔負けの超絶美女が・・・！

ちせ&ミズキ

「ふゆみ先輩!!」

「あいつの奥さん!!」

「私を忘れるなんて酷いねえ」

・・・ふゆみ先輩？

何か・・・怖いオーラが起ってるんですけど・・・。

ふゆみ先輩、ちせに宣戦布告。

「シュウジは渡さないからね!!」

男全員「何ーーーーーい!?!」

「は・・・はい?」(このシリーズでは二人は付き合っておりません)

「シュウジと私はもうレベル50までいつてるんよ」(にっにり)

()(レベル50って何だ。)()
その場にいた人以心伝心。

「あの・・・あたしは構わないけど・・・アケミが・・・」

「じゃあそのアケミって」から貰うね」

全校男子全員（無理だよアケミ様からは）

イトウ「何か泥沼になってきましたね！」

カワハラ「実はこういうの好きですか・・・？」

「ちょっと待ってください」（ミズキ）

「なあに？」（ふゆみ）

「・・・それって浮気じゃないですか？」

「・・・だってあれ帰ってこないし」

「帰れないのは当たり前でしょう」

「だってあれ目当て結婚したんじゃないし。シュウジいないから残りもん」

男全員「あれ扱いされてるよ・・・」

「それにシュウジの方がカッコいいもん」

ミズキ（ぶちっ）

「分かりました……。じゃあ……………」

「ミズキ中佐？」

ちせ、ちよつと彼女モードに戻ってます。

「私はあなたから旦那を奪う!!」

全員（はあ—————!?!?」

「え!?!えつとじゃあ、あたしは……」

ちせまで悩み始めてます。

マサ達（悩まんでいいよ!）

「じゃあ!あたしもシュウジ君を選ぶ!」

男全員（（（（（シュウジ殺す）））））

「待って下さい！」
そこにイク登場。

「イク!?」(サトミ)

「私もシュウジ先輩を選びます!~!」

「あのーカワハラさん・・・」

「何ですか?」

「その、シュウジって子は光源氏でしょうか・・・」

「さあ・・・」

タケ「シュウジ、モテモテだな」
ノリ「あゝオレも彼女ほしー」

もちろん今の会話はラジオでもやってます。(誰かさんのせい)

ナカムラ「・・・オレの方がいい男なのに・・・何でシュウちゃんって

子・・・」

リョーヘー「ちせちゃん（涙）」

テツ「・・・す」

「「は?？」」

「シュウジ殺す・・・!!」

（（怖っ））

シュウジ・・・わりイ（怒）

シュウジ「・・・今寒気がした。」

アケミ「風邪？バカは風邪ひかないっていうけど」
シュウジ「バカじゃねーよ」

アツシ（アケミ・・・!）

「そっぴやブルーになったオレの立場・・・」

タケの声はもう誰にも聞こえない。（ざわめきで）

最強泥沼伝説（後書き）

< font size = 2 > . . . やっちゃったよ。「泥沼」 . . .
。

でもシュウジのモチっぷりってこんな感じですよ . . . （はは）
何かとんでもないものを書いてしまった気が . . .

でもふゆみ先輩の「残りもん」発言は酷いなあ
本当にこんな事考えてたらどうしよう . . .

てかイクまで出しちゃったよ . . . < / font >

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1414a/>

もしもシリーズ

2010年10月9日10時57分発行